



---

法律専攻「演習」  
第2次募集

---



# 【目次】

## 1. 募集について

## 2. 募集に関する注意事項

## 3. 選考方法

## 4. ゼミ内容

➤ 甘利 航司 先生	10 頁	➤ 佐藤 俊輔 先生	23 頁
➤ 一木 孝之 先生	11 頁	➤ 佐藤 彰一 先生	24 頁
➤ 上神 貴佳 先生	12 頁	➤ 佐藤 秀勝 先生	25 頁
➤ 大江 毅 先生	13 頁	➤ 鈴木 達次 先生	26 頁
➤ 岡田 康夫 先生	14 頁	➤ 高橋 信行 先生	27 頁
➤ 桶田 和子 先生	15 頁	➤ 高橋 真人 先生	28 頁
➤ 小原 薫 先生	16 頁	➤ 高山 奈美枝 先生	29 頁
➤ 門広 乃里子 先生	17 頁	➤ 羅 芝賢 先生	30 頁
➤ 川合 敏樹 先生	18 頁	➤ 中曽根 玲子 先生	31 頁
➤ 川村 尚子 先生	19 頁	➤ 長又 高夫 先生	32 頁
➤ 坂本 一登 先生	20 頁	➤ 姫野 学郎 先生	33 頁
➤ 佐古田 真紀子 先生	21 頁	➤ 廣瀬 美佳 先生	34 頁
➤ 捧 剛 先生	22 頁	➤ 福岡 英明 先生	35 頁

- 宮内 靖彦 先生            36 頁
  
- 宮下 大志 先生            37 頁
  
- 安田 恵美 先生            38 頁

[【目次に戻る】](#)

# 1. 募集について

## 【募集スケジュール】

第 1 次 募 集	
終了しました。	

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2022年1月8日（土）12時～1月14日（金）12時50分
選 考 期 間	2022年1月17日（月）～1月22日（土）
合 否 発 表	2022年1月26日（水）20時予定 / K-SMAPYIIにて

※第3次募集の実施は第2次募集の応募状況によって決定します。実施する場合の日程等は、決定次第お知らせします。

## 【応募方法】

### K-SMAPYII より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

[【目次に戻る】](#)

## 2. 募集に関する注意事項

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外のお応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ず K-SMAPY II から応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習は、月～土の1限～6限の間で開講される予定です。具体的な開講曜時は、時間割の発表時に確認してください。
- (キ) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ク) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (ケ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (コ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

### 【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

### 3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司	・現在ゼミ履修中であり、かつ、1次募集のエントリーにミスがあった学生のみ	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本ゼミで何を学びたいか	(書式)自由 (字数)400字以上
			締切日時	1月14日(金)12:50		
一木 孝之	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 taka1@ kokugakuin.ac.jp	民法財産法（民法総則・物権・債権総論・債権各論）科目を受講した際、「興味深いけどわからない」と感じた論点について (1)「ここまではわかったこと」 (2)「ここからわからないこと」	(書式)A4 (字数) (1)400字 (2)400字 計800字
			締切日時	1月14日(金)23:59		
		面接	1月20日(木)11:00～13:00	対面にて実施（0706研究室）		
稲垣 浩	募集なし					
上神 貴佳	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本演習を志望する理由 (メールアドレスを記入すること)	(書式)自由 (字数)1,000字
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月17日(月)17:00～		オンラインにて	
植村 勝慶	募集なし					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
大江 毅	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	ゼミ志望理由について	(書式)指定しない (字数)制限なし
			締切日時	1月14日(金)12:50		
岡田 康夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	(1) このゼミへの志望理由 (2) 関心を持った民法判例(これまで学んだ民法判例の中からもっとも興味を惹いたものの一つを選び、その内容と興味を惹いた理由を詳しく説明してください。) (3) あなたのメールアドレス (面接の詳細について連絡を取ります)	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月17日(月)10:00~17:30		オンラインにて	
桶田 和子	・現2年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 okeda_k@ ymail.plala.or.jp	「演習を受講するにあたって」(自己紹介、志望動機、将来について、どんなゼミにしたいか、1次募集ではどのゼミに応募したのかなど)	(書式)A4横書き (字数)1,600字程度
			締切日時	1月14日(金)12:50		
小原 薫	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	選考免除(募集のみ)				
門広 乃里子	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kadohiro@ kokugakuin.ac.jp	ゼミで研究したい家族法に関するテーマについて(簡単な自己紹介及び本ゼミ志望理由を含みます。また、氏名・学籍番号のほか、平常使用のメールアドレスを必ず記載してください。)	(書式)A4縦置き 横書きワープロ1ページ (字数)1,400字程度
			締切日時	1月14日(金)12:50		
菊田 真司	募集なし					
川合 敏樹	・担当者から第2次募集への応募を指示された現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 t-kawai@ kokugakuin.ac.jp	(1)自己紹介 (2)このゼミの志望理由 (3)行政活動や環境保護に関して関心のある法的問題とその理由 (4)どのようなゼミにしたいか (5)メールアドレス	(書式)自由 (字数)1,200字程度
			締切日時	1月14日(金)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
川村 尚子	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp	①自己紹介 ②民法（財産法）で興味のあるテーマ ③ゼミでやりたいこと、どのように貢献できるか	(書式)Word (doc.またはdocx.) 形式、文字の大きさ10. 5ポイント (字数)2,000字程度
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月18日(火)10:00～17:00		オンラインにて	
坂本 一登	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由と最近興味をもった政治的事件	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	1月15日(土)23:59		
		面接	1月17日(月)16:15～17:00		オンラインにて	
佐古田 真紀子	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介、志望動機、ゼミに期待すること	(書式)Word文書 (字数)1,000字程度
			締切日時	1月14日(金)20:00		
		面接	1月20日(木)12:00～13:20		オンラインにて	
捧 剛	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	指定された英文の内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月16日(日)23:59		
		面接	1月18日(火)12:00～13:00		オンラインにて	
佐藤 俊輔	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp	①演習の志望動機 ②国際関係の中で関心のある事柄について	(書式)横書き・A4 (Wordファイル) (字数)①、②を合わせ1,000字以上
			締切日時	1月14日(金)12:50		
佐藤 彰一	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 stosho99@kokugakuin.ac.jp	私のイメージする権利擁護	(書式)ワード形式 (字数)2,000字まで
			締切日時	1月22日(土)12:50		



[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
佐藤 秀勝	・現2年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①志望理由 ②ゼミで勉強したいこと、または最近気になっている法律問題 ③メールアドレス	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月21日(金)13:00～ (相談に応じます)		オンラインにて	
芝崎 祐典	募集なし					
鈴木 達次	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文（なお、現ゼミ生は提出不要）	(書式)指定なし (字数)800字程度
			締切日時	1月14日(金)12:50		
高内 寿夫	募集なし					
高橋 信行	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 n-takaha@kokugakuin.ac.jp	高橋先生募集要項参照	(書式)A4 (字数) ①1,000字 ②200字
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月18日(火)10:00～14:00		オンラインにて	
高橋 真人	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 takahashi0518@hotmail.com	本ゼミを志望した動機	(書式)PDF (字数)1,600字
			締切日時	1月15日(土)23:59		
高山 奈美枝	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kym079299@kokugakuin.ac.jp	志望理由	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月22日(土)17:00		
羅 芝賢	・現2年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp	①ショシャナ・ズボフ『監視資本主義』の第1章を読んで、著者の主張に対する自分の意見を述べて。 ※課題文献あり ②ゼミの志望理由	(書式)自由 (字数)800～1,000字
			締切日時	1月14日(金)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
中川 孝博	募集なし					
中曽根 玲子	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nakasone@kokugakuin.ac.jp	会社法・金融商品取引法に関する、2019年～2021年の間の法律・経済ニュースの中から、関心のある出来事を取り上げ、選択した理由、内容、感想・意見等を纏めなさい。ただし、カルロス・ゴーン関係のニュースは除く。	(書式)Word文書(40字×40行で横書き)。である調。 (字数)タイトル・学籍番号・氏名(メールアドレス)を除き1,600字以上
			締切日時	1月14日(金)17:00		
		面接	1月17日(月)13:00～17:00		対面にて実施(0706研究室)	レポート選考後に面接を行います。面接の案内(時間帯)を1月15日(土)17時までに各人に送りますので、レポート提出時に、必ず連絡先としてメールアドレスを記載し、当日までには面接の有無や時間帯を必ず確認してください。なお、下記の面接日時で第2希望(一人約20分を予定)まで受けますので、併せて記載してください。ただし、希望に添えない場合があることをご了承ください。
長又 高夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nagamata@kokugakuin.ac.jp	①法制史をどのような学問だと思っていますか ②当ゼミを希望した理由と自己紹介文	(書式)自由 (字数)①②あわせて300字程度
			締切日時	1月14日(金)12:00		
		面接	1月21日(金)12:30～14:00		対面にて実施	
姫野 学郎	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①メールアドレスおよびLine ID ②自己紹介(400字～)	(字数)左記を参照のこと
			締切日時	1月14日(金)12:50		
		面接	1月18日(火)10:30～12:00、13:00～17:00 1月22日(土)10:30～12:00		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
廣瀬 美佳	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由；送付するメールの件名に「2022年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式)Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行(字数)2,000字以内
			締切日時	1月21日(金)16:00		
		面接	1月22日(土)14:00～		オンラインにて	
福岡 英明	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hfukuoka@kokugakuin.ac.jp	興味のあるテーマとその理由	(書式)自由(字数)200字
			締切日時	1月14日(金)12:50		
藤嶋 亮	募集なし					
宮内 靖彦	・現2年生 ・すべての現3年生	課題	提出方法	K-SMAPY II の応募アンケート回答時に記載したKEANのアドレス宛に、MicrosoftFormsの面接アンケートが送付されるので、それに回答すること	オンラインにて	自身のKEANのメールアドレス (@kokugakuin.ac.jp) を記入してください(その後、KEANのアドレスにメールを送り、指定のFormsアンケートに回答してもらいます。具体的な手続は「演習内容」を参照してください)。
			提出日時	【K-SMAPYアンケート締切】 1月14日(金)12:50 【Microsoft Formsの面接アンケート締切】 1月20日(木) 18:00		
		面接日時	1月21日(金)13:30～16:00			
宮下 大志	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp	これまでに最も興味を持った講義	(書式)自由(ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出)(字数)1,200字程度
			締切日時	1月16日(日)19:00		
		面接	1月21日(金)14:40		対面にて実施(0810研究室集合)	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
本久 洋一	募集なし					
安田 恵美	・現2年生 ・すべての 現3年生	レポート	提出 方法	アンケート画面で回答	本演習での研究したい テーマ・問題関心、研究 方法について具体的に記 載してください	(書式)自由 (字数)1,500字程 度
			締切 日時	1月14日(金)12:50		

## 4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>甘利 航司</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>「ビジネスパーソンによる犯罪」と「ビジネスとしての犯罪」</p>
<p>演習内容</p>	<p>本演習のテーマは、あまり良く分からないかもしれませんが、次の2つを扱うものです。この社会においては、ホワイトカラー犯罪や経済犯罪と呼ばれる、ビジネスを行う際になされる犯罪があります。例えば、金融機関の職員が（営業成績を上げてボーナスアップ等をねらうために）顧客をだますような場合です。こういったものが「ビジネスパーソンによる犯罪」です。そして、組織それ自体は会社等（の合法的なもの）ではないのですが、振り込め詐欺等を行って「生業（なりわい）」としている人たちがいます。こういったものを扱うのが「ビジネスとしての犯罪」です。</p> <p>刑法でよく登場するのは、貧困や家庭環境の問題故に犯罪をするといったものですが、本演習ではそういったものとは異なるもので、適切な用語ではないかもしれませんが「狡猾」な犯罪や犯罪者集団について学びます。もう少し分かりやすくいうと、刑法各論の「財産犯」と呼ばれる領域の特別バージョンです。</p>
<p>教科書</p>	<p>穴沢大輔＝長井長信『入門経済刑法』（信山社、2021年）      ＊購入すべきかといった指示は、授業開始後にします。なお、インターネットで目次等を見てみると良いと思います。または、本屋さんにも置いてありますので中身を見てみて下さい。本演習で行おうとしている内容が良く分かります。</p>
<p>参考文献</p>	<p>斉藤＝浅田＝松宮＝高山編『新経済刑法入門 第3版』（成文堂、2020年）      ＊上のコメ印と同じです。</p>
<p>備考</p>	<p>本演習は、刑法各論を現在履修中であるか、既に履修済みの人向けです。そして、財産犯と呼ばれる箇所（例えば財産犯や横領罪）が面白いと感じた方には、たぶん面白いと思います。ただ、刑法各論を一度も勉強してこなかった人には、本演習で扱う内容は少し難しいかもしれません。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	一木 孝之
演習テーマ	民法（財産法）判例読解
演習内容	<p><b>【内容】</b>  前期：「これまでに下級審裁判例を読んだことがない、というゼミ生一人ひとりが、最高裁判例を読みこなせるようになるためのトレーニング」を重ねます。  後期：毎回、民法財産法にかかわる最高裁判例を1件取り上げ、担当者のレジメを用いた報告を受けたのち、ゼミ生全員で、そこに含まれる論点を検討します。</p> <p><b>【ゼミの雰囲気】</b>  「法学部に入ったのだから、判例が読めるようになりたい」「1年間、民法(財産法)をじっくり勉強してみたい」という人を歓迎します。  *コンパは、年2回程度です。合宿は、ゼミ生からの希望があれば、検討します。新型コロナウイルス蔓延状況次第ですが。</p> <p><b>【問い合わせ・レポート提出先】</b>  メール宛先：taka1@kokugakuin.ac.jp  *送信時には、件名を付したうえ、署名（学籍番号・氏名）を忘れないこと。</p>
教科書	特になし
参考文献	潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権 [第8版]』 中田裕康・窪田充見編『民法判例百選 II 債権 [第8版]』
備考	出席は義務です。欠席の甚だしい者には、受講を認めない場合があります。受講態度不良の者（消極的姿勢に終始するなど）についても同様です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	<p>薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。</p> <p>佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。</p> <p>など</p>
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	<p>この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。</p> <p>令和4年度の演習では、民事訴訟に関する文献・判例を素材に討論するとともに、ゼミ生各自が取り組みたいテーマについて、最終的には論文ないしレポートの形に仕上げることが目指したいと考えています。もっとも、ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。他に取り組みでみたい事柄があれば、応募のためのレポートの中で適宜お申し出ください。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、令和3年度は、ゼミ生の希望により、民事訴訟法に関する判例検討、論文・レポートの執筆を実施中です。</p> <p>ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組みでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望等について記述し（箇条書きでよい）、K-Smapy IIのアンケート画面から応募してください。</p>
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	



[【目次に戻る】](#)

教員名	岡田 康夫
演習テーマ	判例で学ぶ不動産法
演習内容	<p>不動産は、我々の生活に欠かせない重要な財産です。近年は、空き家対策、負動産化、所有者不明土地問題といった問題が生じており、これらに対応するために法改正などが活発に進められています。そこで、不動産をめぐる裁判例を題材にして、民法を学びましょう。</p> <p>例えば不動産の取引。当事者の意思能力・行為能力や売主の担保責任、宅建業者の重要事項説明義務などが登場します。不動産の所有。区分所有（マンション）の法律関係や土地の境界をめぐる争いなどが含まれます。民法総則、物権、債権各論といった講義で学ぶ事柄が、形を変えて登場します。こうした、とても幅広い不動産に関する事柄を、講義とは違った角度から学びましょう。</p> <p>なお、最高裁判例だけでなく、地裁や高裁の裁判例も取り上げます。判決文をきちんと読み解きながら内容を整理し、登場した法的問題を分析・検討します。受講人数によって変わりますが、原則として複数のゼミ生で判例発表を行い、その内容をもとにみんなで議論していきます。</p>
教科書	特になし
参考文献	<p>秋山靖浩『不動産法入門』（日本評論社、2011年）</p> <p>安永正昭・鎌田薫・山野目章夫編『不動産取引判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2008年）</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの主役はゼミ生です。不動産（法）に関心を持ち、学びたい意欲のある学生を歓迎します。</li> <li>・出席は必須です。正当な理由のない欠席が続く場合は除籍等の対応をすることがあり得ます。</li> <li>・世の中の状況によりますが、夏期にゼミ合宿を行う予定です。</li> <li>・面接は、zoom を使ったのオンライン面接となります。個別面接ですので、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日までに通知します。通知した開始時間の2、3分前にログインし、待機しててください。</li> </ul> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合は、K-SMAPY II での応募の際にメールアドレスの後にその旨を記述してください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	桶田 和子
演習テーマ	民法に関する重要判例の分析・検討
演習内容	<p>皆さんは、民法についてはすでに講義を受けていると思いますが、実際に紛争に直面した際、解決方法を導き出すのはなかなか難しいのではないのでしょうか。そこで、本演習では、民法（財産法）に関する重要な判例を検討することにより、民法の基礎知識を再確認し、社会生活において紛争に直面した際、問題点を把握し法的解決を図ることのできる素養を養うことを目的としています。</p> <p>具体的には、ゼミナール形式で、報告者が選択した判例について調べて報告し、その報告に基づいて全員で検討を行います。はじめは、直感的に「いい、悪い」「妥当、妥当でない」でよいですが、次第に法律的な議論をしていければと思っています。そのためには、報告者以外の者もその判例について予習し、発言してもらいたいと思います。内容としては、民法（財産法）の重要な判例を取り上げていく予定ですが、詳しくは、第1回授業時に参加者と相談して決めようと思います。</p> <p>評価については、学年末に各自選んだテーマに基づいて小論文を提出し、出席・報告・発言・小論文などを総合的に勘案して評価します。</p> <p>応募にあたっては、「演習を受講するにあたって」という題目でレポートを1月14日12時50分までにPDFファイルでメール（okeda_k@ymail.plala.or.jp）に添付して提出してください（現ゼミ生については、レポートを免除します）。このレポートには、自己紹介、志望動機、将来について、どんなゼミにしたいかを必ず記載して下さい。尚、レポートが提出期限に遅れた場合には、いかなる理由があろうとも選考の対象としませんので注意してください。</p> <p>2年間ゼミに参加することを条件とし、あらゆる面で積極的な参加をする意欲のある学生をもとめています。</p>
教科書	第1回授業時に指示します
参考文献	適宜授業で紹介します。
備考	原則として、欠席・遅刻は認めませんので、必ず出席してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治と思想を考える
演習内容	<p>コロナ禍によって、今まで普通とされていたことができなくなり、生活習慣からありとあらゆるところまで変化が生じた。そして、ますます、経済構造においては格差が進行している。前期は、この日本の現状について、新書を中心として購読・討論を行う。後期は、参加者が自分の問題関心に基づいて調査・研究し、最終的にゼミ論文の完成を目指していく。積極的に討論に参加する意欲的な学生の参加を歓迎する。</p>
教科書	適宜指示する。
参考文献	
備考	ゼミは、火曜日5限に実施。

[【目次に戻る】](#)

教員名	門広 乃里子
演習テーマ	ゼミ生で家族法改正案を作ろう！
演習内容	<p>この演習では、家族法（主に民法親族編・相続編）の改正案をゼミ生たちで作っています。家族法は、戦後、日本国憲法のもと「男女の本質的平等」と「個人の尊厳」を基本理念として大幅に改正され、今日に至っていますが、制定当時と現在とでは人々の家族観も、家族の在り方も大きく変化し、また多様化しています。そのような中、一方では基本理念の浸透に疑問が呈される状況が生じており、他方では、家族法が現実の家族がかかえる問題に十分に対応できていない状況があります。そこで、このゼミでは、現行家族法の問題点について、基本的知識をもとに、裁判例、統計資料、新聞記事、世論調査等を通して明らかにし、必要に応じて改正案を策定します。なお、現在、家族法の見直しも進行していますので、その動向もふまえた議論をします。</p> <p>ゼミ生は、自分たちの興味のあるテーマにつき、グループ毎に問題点と改正点をまとめ、発表し、多数決により承認されれば、これをゼミ案とします。ゼミ運営はゼミ生によって自主的に行われます。例年、ゼミ長と副ゼミ長2名は選挙によって選ばれます。関心・意欲のある学生諸君、大歓迎です。</p> <p>今年度は、対面で授業を行っています。見学を希望する方は、下記のメールまでご連絡ください。その他、ゼミの内容等につきご質問があれば、同メールにお問合せください。 問い合わせ先：kazokuhou.zemi@gmail.com（ゼミ長）</p>
教科書	後日指定
参考文献	後日指定
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	川合 敏樹
演習テーマ	行政法と環境法の基本的・発展的問題を学ぶ
演習内容	<p>行政法と環境法（主に国内環境法）の制度・理論・実務などを学んだり、原告側・被告側に分かれて裁判例を検討したりします。前期では、ゼミ形式での学習に慣れるとともに、行政法や環境法の基本を理解することを目標とします。後期は、ゼミ生の希望のもといくつかのテーマを取り上げ、ゼミ生のより主体的な参加に基づいて、より各論的・専門的な考察を進めていく予定です。今年度後期は、土地・空間の利用やまちづくり、廃棄物処理、自然保護（外来魚規制）が問題となった事例などを検討しています。希望者は個人でのリサーチペーパー（ゼミ論文）の執筆も可能です。</p> <p>ゼミで学び、ゼミを創っていくのは、他ならぬゼミ生自身です。ただ教室に来て黙って座っているだけではなく、全員で考えて議論したり、授業内外で関心を持ったことに積極的に取り組んだりするなど、ゼミでの学習やゼミの運営に主体的に参加したいという方の応募を待っています。状況が許すならば、ゼミ生による発案・運営のもと、懇親目的の企画も適宜行ないたいと考えています。</p> <p>選考にあたって面接を実施する都合上、提出するレポートには、川合と連絡のとれるメールアドレスを記載するようにしてください。</p>
教科書	教科書類は特定せず、適宜教材を配布・紹介します。
参考文献	開講後に指示・紹介します。
備考	<p>面接の正確な実施時刻は、メールにて相談のうえ決めることとします。授業の都合上、上記時間帯での面接が不可能な方は、相談のうえ他の曜時に面接を行いません。</p> <p>ゼミでは、原則として遅刻・欠席を不可とします。遅刻・欠席せざるを得ない場合は、理由を付して事前に連絡すること。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	<p>この演習では、民法のうち主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学習していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目標とします。</p> <p>具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。ただ、いきなり判例を報告してくださいといっても難しいと思うので、授業の前半では、クラス全体で判決の読み方や関連資料の探し方などのレクチャーをします。</p> <p>どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きたいと思います。また、参加している学生の希望に応じて、事例問題を解く回も設けたいと考えています。最終的には、各自、演習でとりあげた判例についてレポートを提出してもらいます。</p> <p>評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。</p> <p>昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため、コンパや合宿はできませんでしたが、例年受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。</p> <p>※次年度は、担当教員が秋学期から在外研究のため演習を持つことができないので、前期集中開講（2限連続で実施）となりますので、注意してください。</p>
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	<p>原則として、欠席は認めません。</p> <p>やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようにお願いしています。</p> <p>また当然ですが、担当班には、報告の準備のために、班のメンバーと数回話し合ったり、レジュメを作成する機会を授業時間外でとってもらうことになります。</p> <p>面接は、Zoomで行います。詳細については、応募後にメールで連絡します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	国際関係と昭和前期の日本
演習内容	<p>来年度のテーマは、「国際関係と昭和前期の日本」である。昭和戦前期は、戦争への道を歩みはじめた時代であるが、その時日本はどのような国際関係の中にあっただろうか。そして、当時の国際関係と日本の政治はどのように関係し、戦争への道とどのように関連していたのだろうか。通常、昭和期の日本は、軍部の暴走として描かれ、理解されていることが多い。</p> <p>しかし戦争は一国の事情だけで起きるわけではない。昭和史の転機となった 満州事件を中心に、視野を広げ、国際連盟を軸とした国際関係のなかで昭和史を考え直してみたい。国内からだけみる世界とは、異なった景色が広がってくるかもしれない。</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期はゼミ・ペーパー（4000字程度）の作成になります。</p>
教科書	<p>クリストファー・ソーン：満州事変とは何だったのかー国際連盟と外交政策の限界 草思社 翻訳 1994</p> <p>小林道彦：近代日本と軍部ー1868-1945 講談社現代新書</p>
参考文献	山本七平：一下級将校の見た帝国陸軍
備考	<p>演習希望者で、指定の時間が不都合な場合は、メールで連絡ください。調整します。 (kazutos@kokugakujin.ac.jp)</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の判例について討論する
演習内容	<p>毎回、民事手続法の判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げていきます。民事訴訟法上の論点には、例えば「お寺の住職が解雇されても裁判上の救済は受けられないのか?」「盗んだ日記を証拠として法廷に提出することは可能?」「訴状が誤って被告に届かないまま判決が下されても、被告は判決に服さなければいけないか?」等といったものがあります。ゼミではこうした問題につき、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員で質問や意見を出してざっくばらんに話し合いながら、手続法的な考え方を修得していきます。</p> <p>毎年秋に、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約18ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集う民事訴訟法合同ゼミナールが開催され、この合同ゼミへの参加が当ゼミのメインイベントとなりつつあります。4年生のサポートのもと、3年生は短期間でめきめきと実力をつけ、毎年、佐古田ゼミは他大学のゼミと、楽しく充実した討論を行っています。前日の開会式では各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります（2021年度はハイブリッドで実施予定）。すっかりその魅力にとりつかれたゼミ生達は、合同ゼミを目標に、年間を通して主体的に計画を立て、お互いに協力し合ってゼミ活動を行っています。</p>
教科書	
参考文献	<p>伊藤眞 『民事訴訟法（第6版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上・下（第2版補訂版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選（第5版）』（有斐閣）</p>
備考	民事訴訟法 IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。



[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	<p>ちょっと専門的な英文を読んでみたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。</p>
演習内容	<p>この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために（もちろん、単なる好奇心でも OK です）、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読んでみたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。</p> <p>そのために、毎回、事前に配布された英文（おそらく、その多くは新聞記事になると思います）の日本語訳を發表してもらいます（英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです）。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。</p> <p>面接（5～10分程度）においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、その際に、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか1つに目を通し（詳細に読む必要はありません）。</p> <p>また、わからないところは飛ばしてしまってもかまいません）、その記事が扱っている問題について自分はどのように考えるかを日本語で書いたものを持参してください（形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください）。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。</p> <p>(1) <a href="https://www.theguardian.com/law">https://www.theguardian.com/law</a>  (2) <a href="https://www.independent.co.uk/voices/">https://www.independent.co.uk/voices/</a>  (3) <a href="https://www.bbc.co.uk/news/uk">https://www.bbc.co.uk/news/uk</a></p>
教科書	なし
参考文献	なし（それほど難しくない[と思われる]）英文資料（主として、新聞記事）を、毎回配布します
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	自由主義的な国際秩序とその行方
演習内容	<p>本演習は、国際政治の現在に関して学びを深めていくため、大きく分けて以下の3つを行うことを予定しています。</p> <p>①共通テーマ「自由主義的な国際秩序とその行方」に関する指定文献の輪読・討論（通年）</p> <p>②数名ずつに分かれ、共同で決定した主題につきグループでの研究・発表（前期）</p> <p>③個々人の関心に基づく演習論文の執筆（後期）</p> <p>演習の主要な主題となるのは「自由主義的な国際秩序とその行方」であり、それに関わる様々な文献を輪読し、議論していくことです。近年、英国のEU離脱や米国におけるトランプ政権の成立を契機として、一方では先進国内部におけるポピュリズムの高まりや格差の問題が、他方では国際的な権威主義体制の高まりが指摘されるようになりました。とりわけ米中の対立が様々な側面で表れるに連れ、従来アメリカを中心に形成されてきた「自由主義的な国際秩序」が揺らいでいるのではという点が国際政治における大きな論争の焦点となっています。本年度の演習では、様々なテキスト、参考書籍、論文等を渉猟する形でその論争の内容を吟味し、全員で議論を行うことで、現在の国際政治についての知見を広め、分析を深めていくことを目指します。（下記の教科書、参考書は現時点での予定であり、開講時にはその時点までの議論の状況や参加者の人数、参加者の関心、負担等を考慮して変更を加えることがあります。）</p> <p>これと並行する形で前期にはグループでの研究調査・報告を行い、後期には個々人の関心に応じて演習論文の執筆に向けた主題決定、調査および途中報告を行い、全員で議論を行います。演習論文は、共通のテーマに限らず、広く国際関係に関する事柄のなかから自由に主題を設定して頂いて、演習の終了時まで論文を執筆し、提出して頂くことが目標となります。</p>
教科書	納家政嗣・上智大学国際関係研究所編『自由主義的国際秩序は崩壊するのか—危機の原因と再生の条件』勁草書房、2021年（予定）
参考文献	<p>佐橋亮『米中対立—アメリカの戦略転換と分断される世界（中公新書 2650）』中央公論新社、2021年</p> <p>イワン・クラステフ『模倣の罠—自由主義の没落』中央公論新社、2021年</p> <p>ブランコ・ミラノヴィッチ『資本主義だけ残った—世界を制するシステムの未来』みすず書房、2021年 等</p>
備考	<p>共通のテーマに関する上記の参考文献等は予定であり、変更することがあります。</p> <p>また、書籍だけでなく様々な論文を抜き出して配布する予定です。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 彰一
演習テーマ	権利擁護をめぐる法と手続
演習内容	<p>日本社会の中で、高齢者・障害者に対する社会的支援は、どんどん重大な課題になってきています。そのキーワードは、権利擁護（Advocacy）です。これらの人々の日常生活は、消費者紛争はもとより、虐待、事故対応、施設契約トラブル、相続・離婚などさまざまな紛争に溢れています。対応としては、訴訟や成年後見制度の利用といった司法制度の利用はもちろん、交渉、調整、など司法以外のさまざまな手段が動員されていきます。福祉や介護、医療の関係者は、権利擁護というタイトルでこうした問題を扱いますが、法学からこれらのトラブルをみれば、憲法や民法、民事訴訟法に関わる、ごく普通の法律問題です。</p> <p>成年後見制度や紛争処理の仕組みを学ぶことがメインになりますが、本ゼミでは、理解を深めるためにゼミ論の作成と主要文献の輪読をメインにおきます。</p> <p>対象となるテーマが、困難な生活の中で生起するものですので、法哲学やケア論などの話題にも関わってくることもあります。</p>
教科書	指定しない
参考文献	ゼミ実施時に担当者が用意します。
備考	なお、選考はレポート方式を採用するが、現在履修中のゼミ生は、レポートを提出する必要はない。また、いまのところ三次募集は実施しない予定である。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	最高裁判例または事例問題の検討
演習内容	<p>1. 演習の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この演習の目的は、最高裁判例または事例問題の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は、具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、判例または事例問題の検討や他の人とのディスカッションを通じて「生きた知識」を身に付けることを目指します。</li> </ul> <p>2. 演習の内容・進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 で述べたことは現時点での予定です。実際には参加者と相談のうえで内容を決めるつもりです（たとえば令和3年度前期は、新聞記事等を題材とする報告を行いました。その他、文献購読等も考えられます）。</li> <li>進め方に関しては開講時に説明します。</li> <li>学生が主体となったゼミ運営を目指します。また、グループ単位での作業やディスカッションを行ってもらう予定です。</li> </ul>
教科書	開講時に説明します。
参考文献	開講時に説明します。
備考	<p>1. 次の場合には除籍等の対処をします。</p> <p>①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く）</p> <p>2. 面接に関して</p> <p>（1）面接はオンラインで実施します。連絡先を知る必要がありますので、課題提出の際にメールアドレスを正確に記載してください。また、日程については相談に応じます。</p> <p>（2）面接では、レポートの内容のほか、民法に関する基本的な事項（※）についても質問する予定です。</p> <p>（※）次のうち1つをお聞きします：①契約自由の原則（特に契約内容の自由）と制限、②過失責任と無過失責任、③物権と債権の違い。いずれも具体例を使って説明できるように準備しておいてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	<p><b>【内容】</b>  会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。  皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。  会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。</p> <p><b>【運営】</b>  司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。</p> <p>最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむことになります。</p> <p><b>【成績評価】</b>  司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。</p>
教科書	指定しません。ただし、六法は毎回持参してください。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	①会社法の基礎、株式会社法ⅠA、株式会社法ⅠBおよび株式会社法Ⅱの講義を履修していない方は、演習と併行して履修してください。 ②レポートの自己紹介文には、プロフィール、長所（短所）、大学入学後に勉強してきたことといった本来の自己紹介のみならず、入ゼミ後にやりたいこと、ゼミに対する熱意といった点についても記述してもらって構いません。 ③例年商法系の他のゼミとの合同ゼミを実施しており、2022年度も行う予定です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 信行
演習テーマ	行政法の最新判例を学ぶ
演習内容	<p>本ゼミでは、行政法の最新判例について学習する。法学部の講義においては、一つの判例を丁寧に分析する余裕はないが、本来、判例の分析は法学部生として必須の課程であるので、このゼミを契機として、判例分析の能力を習得するとともに、行政法の分野にどのような変化が生じているか、という点を学んでほしい。</p> <p>ゼミの進め方としては、前期においては、3～4の判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学ぶ。後期においては、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う。ゼミの選考はレポートと面接に基づいて行う。今年度のゼミはハイフレックス型（対面+Zoomを利用した遠隔形式）で実施しているので、見学を希望する者は高橋までメールにて連絡してください（月曜日3限の時間帯に実施）。</p> <p>また、応募に際しては、以下に掲げた課題について1000字程度のレポートを執筆し、メールにて送ってください。なお、指定された面接日時（1月18日10時-14時）に参加できない者は、メールにて高橋まで連絡してください。</p> <p><b>【課題】「最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの」について</b>  *新聞やニュースを調べた上で、行政法関係のニュースで興味をもったものを紹介してください。そして、なぜそれに興味を持ったか？関係する法的争点は何か？自分だったらどのような解決を試みるか？といった点について意見を述べてください。（1000字）  また、自分の自己紹介（特技や将来の夢、ゼミに向けての意気込み等）と連絡先（必ず連絡のとれるメールアドレス）も付記してください。（200字）</p>
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 真人
演習テーマ	実践できる法律知識の修得
演習内容	<p>不動産登記は、住宅の購入やそれともなうローンの利用、親の死亡による相続などの際に利用される極めて身近な法制度である。不動産登記というと、民法の文脈では争いを前提として権利の優劣の判定をする気難しい制度として登場する。しかしこの制度は争いを起こさないために作られたものであり、本演習はこれを民法の物権変動論ではなく、仕事や生活で不動産登記を必要としたときに、実際に何をしたらいいのかの「スキル」を学ぶ。具体的には、与えられた事例について実体法的にどのような法律関係が生じたかを考え学習していく。</p> <p>特に、宅建業や銀行等、不動産をめぐる権利関係への法律知識を日常的に必要とする仕事を目指す者や、宅地建物取引士や司法書士等の資格取得を目指す者を歓迎する。</p> <p>&lt;選考方法&gt; レポートにより選考します。          テーマ：本ゼミを志望した動機 1600字程度          提出方法：PDFをメールに添付してください。          アドレス takahashi0518@hotmail.com          締切日時：1月15日（土）23時59分（厳守）          なお、現ゼミ生（現3年生）が応募する場合は、レポート提出を免除します。</p>
教科書	なし
参考文献	集中講義「不動産登記法」齋藤隆夫著 成文堂 民法の講義で使用した教科書 六法
備考	<u>なお、本演習の履修に当たっては、不動産登記法、民法総則・物件・債券・親族・相続について、履修済みであるか履修予定であることが望ましい</u>

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	<p>この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていきけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいで結構です。</p> <p>民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思ひます。</p>
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	



[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	AI と行政
演習内容	<p>AI が人間の意思決定を助けるようになると、行政の現場はどのように変化していくのでしょうか。この問題に関しては、これまでもさまざまな議論が繰り広げられてきました。その中には、単純作業をAI に任せて、職員は今までよりもクリエイティブな仕事に集中できるようになるという意見もあれば、AI が人間の仕事を奪ってしまうだろうという意見もあります。あるいは、保育園や介護サービスなどに対する人々の需要を予測し、より迅速でかつきめ細かなサービスを提供できるようになるという期待も寄せられています。しかしその一方で、AI が判断の根拠とするビッグデータは現実社会の歪みをそのまま反映しているために、それを利用することで女性差別や経済的格差といった問題をさらに助長してしまう恐れがあるという指摘も浮上しています。</p> <p>この授業では、こうしたさまざまな議論が展開されている中で、いかなる要因が行政におけるAI の導入を進めたり、妨げたりしているのか、また、AI が行政職員と市民をより自由な状態へと導く可能性はあるのかといった問題について検討します。</p>
教科書	<p>ショシャナ・ズボフ『監視資本主義（野中香方子訳）』（2021年、東洋経済新報社） ※教科書は毎年変わります。</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>前期は、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、研究デザインの方法を学び、研究報告会を行います。また、資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	中曽根 玲子
演習テーマ	会社法・金融商品取引法を巡る事例を考える
演習内容	<p>社会を騒がせた有名な事件（ニュース）であっても、法的な論点は何であったのかは意外と知られていないことが多い。本演習では、会社法（金融商品取引法を含む）に関連する最新のニュース（たとえば、企業不祥事と内部統制、株主代表訴訟、役員報酬、企業買収、インサイダー取引、不正な株価操作等などの事例）を取り上げ、問題の背景や法的問題点を調べ、実際の事例からアプローチして法規制の意義を考え、会社法・金融商品取引法を理論的に学習することを目的としている。</p> <p>ゼミでは、グループワークを重視し、報告・レジュメの提出等を通じて、臆せずに素朴な質問もでき、法的な問題にも全員で取り組む中で自ら説明ができることを目的とする。前期では、4年生を中心に会社法・金商法の基本的事項について学習を深め、後期には、株式会社制度を考えるきっかけとなる図書をテーマとする議論や個別発表・全体発表などを行う予定である。</p> <p>広く経済社会の出来事に興味や問題意識を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組む意欲のある学生の参加を期待したい。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会社法に関するテキスト（とくに指定しないので、授業等で使用しているものでよい）</li> <li>●金融商品取引法に関するテキストは、演習内で指示する</li> <li>●指定六法（最新版が望ましい）</li> </ul>
参考文献	その他、必要な参考文献は適宜指示、または演習内で配付する
備考	<p>ゼミの受講を希望する場合には、会社法の基礎的知識が不可欠になるので、すでに「会社法の基礎」を履修している（または履修中）か、ゼミと並行して履修することが必要である。なお、株式会社に関する法制度をさらに深く学修したい場合には、「株式会社法ⅠA」「株式会社法ⅠB」「株式会社法Ⅱ」を積極的に履修してほしい。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	長又 高夫
演習テーマ	前近代の法典・法書を読む
演習内容	<p>昨年に引き続き、御成敗式目を読んでいく。中世社会にうまれた御成敗式目がどのような法典であったのか、歴史的に考察する。前近代社会において御成敗式目が重んじられたその理由を探っていく。</p> <p>進め方としては、まずは51か条を1か条ずつ解釈して、その内容を正確に理解した上で、律令法や公家法との関係を明らかにする。また、その後に制定された追加法との関係も考えながら、中世法の面白さを知ってもらいたい。</p> <p>1か条ずつ独立しているので、今年から参加することも問題はないと思われる。</p> <p>事前に担当者をきめ、調べてきてきた内容を発表してもらい、質疑応答を行う。また解釈にあたっては、読み下し文と注釈を載せる『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）を参考にすると良い。なお鎌倉・室町期に執筆された式目の注釈書も大いに参考となる。</p>
教科書	『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）。ただし担当箇所をコピーするだけでも良い。
参考文献	植木直一郎『御成敗式目研究』（名著刊行会）、長又高夫『御成敗式目編纂の基礎的研究』（汲古書院）、『中世法制史料集』全7冊（岩波書店）ほか
備考	面接をオンラインで希望する学生は、nagamta@kokugakuin.ac.jp まで、ご連絡ください。指定日時は対面のもので、希望日時を打ち合わせましょう。

[【目次に戻る】](#)

教員名	姫野 学郎
演習テーマ	判例とその周辺
演習内容	<p>授業でも教科書・基本書でも、よく「判例・通説は～である」といいます。「下級審裁判例は～である」という表現に出くわした人もいるでしょう。そして、たしかに「判例」の一部を読んだことがある人も結構いるでしょう（『～法判例百選』など）。しかし、現実に「判例」（を含む「判決書」）の全体を読んだことがある人はそんなに多くないのではないかと、思います。</p> <p>「判例」とか「判決書」といわれるものを熟読、斜め読み、とぼし読み、等々いろんな方法で読んで、その場で必要な中身を把握するには、民法その他の実体法と民事訴訟法その他の訴訟法を勉強済みであるだけでは、実は必ずしも十分ではありません。たとえば、民法と民事訴訟法とで互いに「あっちの授業で聞いてください」で譲り合っている問題も多いのです。そうすると、民法と民事訴訟の橋渡しになる知識をはじめ、判例のいわば《周辺》の知識が必要になってきます。たとえば昔の最高裁判所の合議では、分厚い『六法』を投げつけあって大喧嘩した、なんてこともありました。たとえば飲み屋の雑談のなかではなく、公文書である判決書のなかで、「戦後に多く見られる男女関係の余りの無軌道」を大まじめに憂えた最高裁判事もいました。そして、不倫した夫からの離婚請求を「踏んだり蹴ったりである」として斥けたのです（1952年）。</p> <p>さて、いろいろ難しいことを書きました。この演習は、民法は総則・債権各論までは習ったことがあり、民事訴訟法はまだ勉強したことがない人をいちおうの対象にしています。でも、受講者の方向性・希望等にあわせて柔軟に運営していきます。年度によっては判例はあまりやらずむしろ論文や不法行為の基本書読みに重点をおいたこともありました。やる気のある人、好奇心おう盛な人を待っています。</p> <p>なお、ゼミ選考の面接時間に都合が悪い場合や教員に質問がある場合は、事前に教員（ghimeno@live.jp）かゼミ生（himenozemi@yahoo.co.jp; Line ID: tttagnu または earthuzu440323）まで連絡をください。</p>
教科書	民法判例百選 I・II・III
参考文献	内田貴『民法』、大村敦志『基本民法』
備考	3回以上無断欠席した者には単位を与えない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	<p>本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることとなります(2021年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなりましたが、引き続き新型コロナ・ウイルス禍に見舞われていることもあり、また、東京オリンピック・パラリンピックが開催されたこともあって、前期は、2020年度に1年間かけて勉強した「感染症対策と法」を引き続きテーマに据え、特に検疫等の水際対策を中心に学びました(後期は各自が自身の関心のあるテーマにつき調べて報告をするというスタイルで進めています)。</p> <p>ですので、2022年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがどういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで(このままコロナ禍が収束して、いわゆるリモートではなく、教室で直に御目にかかれるといいのですが…)、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法や医事法プロパーな法律を中心に勉強することになるものと思われまます。</p>
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	<p>(01) 事前の志望理由等提出について： 必ず、提出締切日である 2022. 01. 21. (金) の 16:00 までに廣瀬のアドレス宛に着信するよう、送付すること。<u>折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします。</u></p> <p>(02) 選考日時について： 事情により当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&amp;面接に要する時間は応募者1人につき15分程度を目安とします)。</p> <p>(03) 履修者数について： 参加者全員による議論を成立させるため、現2・3年生合わせて20名程度を上限としたい。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	福岡 英明
演習テーマ	簡単な事例問題を解きながら、基礎知識を確認し、思考力を高める
演習内容	<p>「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」という演習書を利用して、簡単な事例問題を解きながら基礎知識を確認していきます。</p> <p>毎回、1問解くことを目指しますが、実際には、1問解くのに3回くらいかかると思います。とくに各回の担当者は決めずに、教員と学生、あるいは学生同士の問答により演習を進めます。</p> <p>基礎知識があやふやなところがあれば、その都度、教員が補足的な説明をします。</p> <p>どのような順序で考えていけば、結論にたどり着けるのかを教員・学生間でのディスカッションを通じて体得できればと思います。</p> <p>1・2年次に憲法を履修したけれども、なんだか心もとないと感じている学生でも、気軽に参加できる演習をしたいと思います。</p>
教科書	加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」北樹出版
参考文献	<p>適時、必要なものをコピーして配布する。</p> <p>また、使用する教科書に問題ごとの参考文献が提示されているので、興味があれば読むとよい。</p>
備考	<p>K-SMAPY II で登録せずに、メールだけ送ってくる学生がありますが、必ず登録したうえで、メールを送ってください。</p> <p>夏休み中の合宿を行う予定はありません。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮内 靖彦
演習テーマ	国際法の欠缺の場合の国際法の使い方・作り方
演習内容	<p>令和4年度の国際法のゼミは、「国際紛争で国際法のルールが明確でないとき、国際法をどのように発見したり創ったりするのか」を検討します。</p> <p>具体的には、前期に、この問題についての本や論文を読み、後期に、各自が選んだ事例で、実際にどのように国際法を補って対応されたか、それをどう考えればいいのかについて、各自が調査研究し、ローテーションで報告し、最終的にゼミ論の形でまとめる予定です。</p> <p><b>(応募手続)</b></p> <p>応募者は、K-SMPAY II から応募する際、<u>KEAN メールアドレスも記入してください</u>。</p> <p>私から KEAN のアドレスにメールを送ります。メールには Microsoft Forms の面接アンケートのリンクと Zoom ミーティング情報・面接時間・方法が記されていますので、確認してください。</p> <p><b>Microsoft Forms の面接アンケートは、1月20日（木）午後6時00分までに、</b>メール記載のリンクにアクセスし、KEAN アカウントでログインして、回答してください。</p> <p>また、面接は、所定の面接時間に KEAN のアカウントを使って、<b>Zoom</b> でアクセスしてください。</p>
教科書	特になし。但し、条約集は必携（出版社は問わない）。
参考文献	授業中、随時指示する
備考	<p>宮内との連絡は、大学の KEAN メール (@kokugakuin. ac. jp) を使いますので、KEAN のメールアドレスの受信メールを確認してください。KEAN メールを受け取っている自分のメール・アプリに来ていないときは、ブラウザで下記の URL のホームページにアクセスして、確認してください。それでも見つけられない場合は、宮内までメールで連絡してください。</p> <p>(参考：Office365/メールシステム)</p> <p>----→ <a href="https://outlook.office365.com/owa/kokugakuin.ac.jp">https://outlook.office365.com/owa/kokugakuin.ac.jp</a></p> <p>(宮内の KEAN メールアドレス：miyauchi@kokugakuin.ac.jp)</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしよう？」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる10年ほど前、その「55年体制」が崩れ、また日本の政治状況の変化もあって、55年体制の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こりましたが、その後「〇〇一強」という状況になって、しかしその後まさに直近の情勢ではまた変化の兆しも見せています。</p> <p>そして社会の状況としては、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをおこなう予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「これまでに最も興味を持った講義」という題目で、これまで履修した講義のうち、もっとも興味を持った講義について、その内容を紹介しながら、そこから自分が何を考えたかを記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。</p> <p>現ゼミ生は選考を免除します。</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては1/21（金）の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限に授業があるのでその前に設定してほしい」など）、さらには対面の面接は避けたいといった場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも16時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>



[【目次に戻る】](#)

教員名	安田 恵美
演習テーマ	わが国における「犯罪対策」「犯罪者等への対応」を検討する
演習内容	<p>近時の日本における「犯罪現象」や「犯罪対策」に対する、あなたの印象・意見はどのようなものでしょうか。そして、その印象や意見の基礎をなす情報はどこから入手したものでしょうか。とりわけ重大な事件が起きたとき、各種マスメディアで大々的に報道されます。しかし、それは特定の事件であって、必ずしも日本の犯罪現象を代表するものではありません。本演習では、まず、日本の犯罪現象について科学的に分析を行う作業を行います。その上で各種犯罪対策や犯罪者への対応について、現状を理解し、分析する作業を行います。</p> <p>前期はこの作業を行うために必要な基礎的な知識やスキルの習得に向けた作業を、後期は各々で設定したテーマの分析を進め、1万字程度のレポートにまとめる作業を行います。くわえて、受講生との相談の上で、オンライン等での各種専門家等へのヒアリングや他大学の学生との討論等、そして状況が許せば関連する施設見学等も行う予定です。</p>
教科書	未定
参考文献	犯罪白書、再犯防止推進白書、武内謙治＝本庄武『刑事政策学』（日本評論社、2019）
備考	<p>演習の時間外のヒアリングや合同討論会への参加は原則任意ですが、演習の時間に準備を行う場合、その準備作業は演習の内容に含まれます。</p> <p>本演習の選考は、K-SMAPYのアンケート機能を用いて行います。面接は行いません。アンケートには「レポート」課題に関するもの以外の項目（参照した文献、これまで履修した授業等。）も設ける予定です。回答を総合的に考慮して可否を判定します。応募締切時刻と課題提出時刻が一緒ですので、時間に余裕をもってアンケートに回答してください</p>